

## 令和5年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果について

横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が、地方独立行政法人法に基づき、令和5年度における公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価を実施し、設立団体の長である市長に対して評価結果の報告がありましたので、概要を報告します。

### 1 総評

第4期中期計画の初年度である令和5年度は、教育、研究、医療、法人経営等 多岐にわたる分野について、計画に基づく具体的な取組が着実に進みつつあると認められる。また、理事長直轄の監査室の新設など、ガバナンス強化の面でも進展が見られた。一方、5年度決算については、経常損益が大きな赤字となっており、早期の収支改善に努める必要がある。

### 2 項目別評価（B以外の評価を抜粋）

S：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある A：計画を上回って実施している  
B：計画どおり実施している C：計画を十分に実施していない D：重大な改善事項がある

※（ ）内は法人の自己評価

5年度計画の主な取組	評価委員会の主な意見 (○：特に評価できる点 ●：期待されるまたは改善すべき点)	評価※
<b>I 教育</b>		
<b>2 5学部6研究科における教育の充実</b>		
◇ <u>ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを踏まえた教育の提供</u> ・数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）プラス認定レベルのプログラムを検討、実施する。 ・ヘルスデータサイエンス専攻博士後期課程を開設する。 ・社会人を対象として、データサイエンスに関する複数の履修証明プログラムを開始する。	○ <u>大学・高専機能強化支援事業を活用したデータサイエンス教育の全学的な強化、国際商学部データサイエンス人材育成プログラムの試行開設、ヘルスデータサイエンス専攻博士後期課程の開設、社会人を対象とした履修証明プログラムの開設などに取り組んだことを高く評価する。</u> ○ <u>大学・高専機能強化支援事業の認定で基盤ができ、また、次世代研究者挑戦的研究プログラム事業（SPRING事業）に採択されたことで、博士課程後期学生への支援が手厚くなっている。</u>	A (A)

<b>II 研究</b>						
<b>1 先進的・学際的研究等の推進</b>						
<p>◇<b>先進的な医科学研究及びトランスレーショナルリサーチの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学長裁量事業「戦略的研究推進事業」を推進する。</li> <li>・学長裁量事業「学術的研究推進事業」を推進する。</li> <li>・YCU連携研究コアを推進し、新たな研究プロジェクトの展開を目指す。</li> </ul> <p>◇<b>世界レベルの基盤技術に基づく研究成果の創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究成果の学術的意義促進に向け論文投稿支援制度において研究者の論文投稿を支援する。</li> </ul>	<p>○<u>先端医科学研究センターを核として、基礎と臨床の連携や共同研究が強化されていること、臨床研究の推進支援体制が整備されてきていること、学長裁量事業による研究推進が進んでいることを高く評価する。</u></p> <p>○<u>共同利用・共同研究拠点「マルチオミックスによる遺伝子発現制御の先端医学共同研究拠点」の認定期間終了に伴う文部科学省の期末評価でS評価となり、再認定されたことは賞賛に値する。</u></p> <p>●論文数の指標に関しては高い目標設定がなされている。その実現のための取組の進捗が加速されることを期待する。</p> <p style="text-align: center;">＜主要な学術誌等掲載論文数＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">指標（中期計画期間中）</th> <th style="text-align: center;">実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">6,610件（累計）</td> <td style="text-align: center;">1,003件/年（進捗率 15.2%）</td> </tr> </tbody> </table>	指標（中期計画期間中）	実績	6,610件（累計）	1,003件/年（進捗率 15.2%）	<p>A (A)</p>
指標（中期計画期間中）	実績					
6,610件（累計）	1,003件/年（進捗率 15.2%）					
<b>III 医療</b>						
<b>2 質の高い医療の提供</b>						
<p>◇<b>大学病院・高度急性期病院としての医療機能の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔ICUについては、令和6年度診療報酬の収載を見据え、支援先病院と運用変更の検討・策定を行う。</li> <li>・遠隔ICUの参加要望がある病院に対して、設備改修を検討する。</li> </ul> <p>◇<b>外国人患者のニーズに対応した環境の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者自身がスマートフォンで同意書、説明書を確認できるシステム作りを行う。</li> </ul> <p>◇<b>先進医療の取得・実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進医療申請の可能性のあるものについて、早期に厚生労働の先進医療事前相談を受け、研究計画書を作成できるようにする。</li> </ul>	<p>○<u>遠隔ICUへの他病院の参加の開始や、外国人患者のための様々な環境整備を進めていることを高く評価する。</u></p> <p>○<u>質の高い医療の提供に向けた、必要な施設・整備投資を着実に進めている。</u></p> <p>●先進医療申請のために、段階を踏んで着実に取り組んでいくことを期待する。</p>	<p>A (B)</p>				

### 3 政策的医療への貢献、地域医療の推進

#### ◇周産期・小児・生殖医療

- ・不妊治療の需要増に対応するため、生殖医療センターの拡充を実施する。
- ・県内唯一の男女いずれも診療可能な不妊治療施設として、精索静脈瘤手術、精巣内精子採取術、先進医療を含む高度生殖医療（体外受精－胚移植など）等の高度な治療を患者に提供する。

#### ◇災害時医療

- ・「災害拠点病院」として中心的な役割を担うため、災害時は神奈川県庁等の調整本部へ積極的に関与するとともに、DMAT 隊員を中心とした現場医療救護活動を実施する。

※ DMAT (Disaster Medical Assistance Team) : 災害派遣医療チーム

- 不妊治療の提供において、目標を大きく超えた実績を上げたことを高く評価する。

<不妊治療研修（附属市民総合医療センター）>

指標（中期期間中）	実績
男性 250件／最終年度	男性 204件/年
女性 215件／最終年度	女性 305件/年

- 医療機関間の連携の拡大や、災害医療への積極的な取組を高く評価する。

- 附属市民総合医療センターの新入院患者数の拡大や入院管理の改善に向け、一層の取組を期待する。

<新入院患者数（附属市民総合医療センター）>

指標（中期期間中）	実績
20,200人／最終年度	18,637人／年

A  
(B)

### 4 明日を担う質の高い医療人材の育成と活用

#### ◇臨床研修医の確保と育成

- ・前年度受審した卒後臨床研修評価機構による臨床研修評価を踏まえ、附属2病院の特色を生かした魅力的な指導体制や研修プログラムを充実する。

#### ◇看護師・コメディカルの育成

- ・キャリアラダーに基づいて、外部の研修・学会等に参加する。

- 様々な取組の結果の積み重ねが、初期研修医のマッチング率や登録者数の数値に反映されている。

<初期研修医マッチング率>

指標（中期期間中）	実績
【附・セ】100%	【附・セ】100%

<全国大学附属病院 初期臨床研修医マッチング登録者数順位>

年度目標	実績
5位以内【附・セ】	【附】2位 【セ】1位

- 地域機関との人事交流やキャリアラダーに基づく研修、専攻医の育成、臨床研修医の確保等、積極的に質の高い医療人材の育成に努め、実績を残した。

A  
(A)

<p>◇専門・認定、特定行為研修終了看護師の育成・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市立大学大学院看護学専攻博士前期課程への進学者を附属2病院合わせて2名輩出する。</li> <li>臨床実習指導者講習会の受講者を附属2病院合わせて8名育成する。</li> </ul>	<p>○大学院看護学専攻博士前期課程進学者や臨床実習指導者講習会受講者は、計画を大きく超えて達成した。</p> <p>進学者 実績 3名/年（6年度進学者）          受講者 実績 16名/年</p>					
<p><b>IV 法人経営</b></p>						
<p><b>2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保</b></p>						
<p>◇経営改革に資する各プロジェクトの取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>厳しい財政状況を踏まえ、支出に関する財源や間接経費の有効活用について整理する。</li> </ul> <p>◇研究費獲得施策の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>間接経費率の改定を行う。</li> </ul> <p>◇横浜市立大学基金の拡充に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>寄附運営委員会をはじめ各種会議体やYCU法人news等の広報媒体を通じて、学内への情報発信、情報共有を行い、寄附意識の浸透と促進を図る。</li> </ul> <p>◇経営改革に資する各プロジェクトの取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学部・研究科ごとの収支に関する目標を設定する。</li> </ul>	<p>○研究支援体制の整備や、受託研究・共同研究の間接経費比率の引上げに取り組んだことを評価する。</p> <p>●目標に及ばなかった寄附金等、外部資金の獲得については、<u>まだ拡大の余地があることから、創立100周年に向けた体制整備、同窓会組織との連携も含めて取組を強化することを期待する。</u></p> <p style="text-align: center;">&lt;寄附獲得額&gt;</p> <table border="1" data-bbox="1106 995 1780 1069"> <thead> <tr> <th>年度目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2.5億円</td> <td>1.77億円（達成率 71%）</td> </tr> </tbody> </table> <p>●<u>経常損益の赤字、学部・研究科ごとの収支目標が未設定であることについて、今後の対応が望まれる。</u></p>	年度目標	実績	2.5億円	1.77億円（達成率 71%）	<p>C (C)</p>
年度目標	実績					
2.5億円	1.77億円（達成率 71%）					

#### 4 教職員エンゲージメントの向上

##### ◇病院職員の労働環境の向上

- ・医師の適切な労働時間の管理に向け、医師に特化した出退勤管理システムを導入する。

##### ◇医師のタスクシフト・タスクシェア

- ・多職種からなる役割分担の医師の負担軽減及び処遇の改善計画である「医師の労働時間短縮計画」の策定を行う。

- ・新たに策定したダイバーシティ推進計画について、教職員や学生に対し広く周知し、関連する情報を適時発信していく。

- 医師のタスクシフトやタスクシェアに向けた取組が前進していることを評価する。

- 配偶者の出産に伴う休暇（3日以上）については、医師の取得率が特に低いことから、取得率の向上に向けて、より具体的に効果的な取組を実施すべきである。

<配偶者の出産に伴う休暇（3日以上）の取得率>

指標（中期計画期間中）	実績
100%	53.8%

- ダイバーシティ推進については、さらに具体的な実施内容を実績報告書にも明らかにしていくことが望まれる。

C  
(C)